

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

リンテック株式会社

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について
(進捗アップデート)

LINTEC Corporation

現状分析

前中期経営計画「LSV 2030 – Stage 1」および 現中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」における実績値の推移・目標

	前中期経営計画 LSV 2030 – Stage 1			現中期経営計画 LSV 2030 – Stage 2		
	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 初年度 実績	2026年3月期 2年目 実績	2027年3月期 最終年度目標
売上高（百万円）	256,836	284,603	276,321	315,978	319,385	342,000
営業利益（百万円）	21,584	13,796	10,628	24,562	25,156	27,500
営業利益率	8.4%	4.8%	3.8%	7.8%	7.9%	8%以上
親会社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	16,641	11,512	5,243	14,476	17,374	19,500
ROE 自己資本当期純利益率	8.2%	5.3%	2.3%	6.1%	6.9%	8%以上
WACC 加重平均資本コスト※	5.2%	5.2%	5.3%	6.0%	6.1%	-
PBR 株価純資産倍率	0.81倍	0.65倍	0.93倍	0.76倍	1.14倍	1倍以上
株価 (期末 調整後終値)	2,431円	2,165円	3,165円	2,756円	4,480円	-

※ CAPM（Capital Asset Pricing Model）を用いた当社にて算出の加重平均資本コスト

現状分析

■中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」2年目 (2026年3月期) 実績

【収益性の向上、資本効率の向上】

- 中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」の2年目であった2026年3月期は、AI関連の需要増加により半導体・電子部品関連製品が前期に引き続き堅調に推移したことで、初年度を上回る売上高および営業利益を達成
 - 売上高営業利益率は **7.9%**、ROEは **6.9%**となった
- 工程紙塗工設備、EUVLペリクル量産体制構築、半導体関連装置受注対応などの**新規設備投資を継続中**
 - 設備投資額 (連結) 初年度実績 **206億円**, **2年目実績 153億円**
- 洋紙事業において、収益性向上のための構造改革として**抄紙機1台を停機** (熊谷工場K-1M/C)
前期に減損損失 7,728百万円を計上したことに加え、**2026年3月期に減損損失 716百万円を計上**
- 東南アジアや中国向けの積層セラミックコンデンサ関連テープの競争力が低下し、今後の受注回復見込みは極めて厳しく、採算性の検討結果、**マレーシアでの製造・販売からの撤退**を決定 (LIM社の解散)

【株主還元の充実】①

- 利益配分に関する基本方針に基づき、2026年3月期の年間配当金は1株当たり**110円**とした
 - 配当性向 **41.6%** (中間 **55円/株**、期末 **55円/株**)
 - DOE (株主資本配当率) **3.5%**

現状分析

【株主還元の充実】②

●自己株式取得

- 300万株または100億円を上限とする2025年2月7日から2025年9月30日までの期間での自己株式取得
→ 取得した株式の総数 **3,000,000株**、株式の取得価額の総額 **8,331,620,000円** にて終了

【サステナビリティ経営の推進】

●国内外の機関投資家・アナリストとのIRミーティング対応ほか、個人投資家向け会社説明会の実施

- 個別ミーティングなどで面談した機関投資家・証券アナリスト
2025年3月期活動実績 (延べ) 311社 419人, **2026年3月期活動実績 (延べ) 284社 367人**

●ESGへの取り組み強化

- 2030年までにCO2排出量を50%以上削減 (2013年度比) 目標に対する実績
2024年3月期実績 51.4%, 2025年3月期実績 52.5%, 2024年度・2025年度と目標値を順調にクリア
2026年3月期実績 60.4%
→ **新たな削減目標**を設定 2027年3月期までに **67%以上**、2030年3月期までに **75%以上**に変更

●PBR (株価純資産倍率) は 1.0倍を超えて推移

- 2026年3月期末時点 **1.14倍** (期末株価 3/31調整後終値 4,480円)

今後の取り組み

■中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」最終年度 (2027年3月期)の主な取り組み

【収益性の向上、資本効率の向上】①

●2年目に引き続き、長期ビジョンの重点テーマおよび中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」の諸施策に取り組み、Stage 2 の最終年度経営目標である **売上高営業利益率 8%以上**、**ROE 8%** を目指す

●既存事業の強化

○高性能マシンの導入や既存ラインのスクラップ&ビルドによる生産体制の最適化

◆前期に完成した新規導入生産設備

剥離フィルム塗工設備, 半導体関連粘着テープ塗工設備, 工程紙塗工設備 → **本格稼働**

◆旧型生産設備の停止と集約

塗工設備, ポリエチレンラミネーター, その他老朽化設備 → **統廃合による生産最適化**

◆半導体関連装置増産体制構築

伊奈テクノロジーセンターに新棟建設 → **2027年3月期完成予定, 増産体制の早期確立**

○固定資産や棚卸資産などの回転率改善

→ 事業部門ごとにKPI(固定資産, 棚卸資産, 売上債権など)を設定し、分析・活用する体制に移行
採算性の向上・収益改善につなげる

今後の取り組み

【収益性の向上、資本効率の向上】②

●新製品・新事業の早期立ち上げ

○EUV露光機用CNTペリクル量産体制構築

➡ リンテックつくばイノベーションクリエーションセンター開設

先端半導体の微細回路形成に欠かせないEUV露光機用CNTペリクル(防塵材料)の生産設備導入
フルサイズのペリクルサンプル供給に着手

○AI向けなどの先端半導体分野における材料・プロセス開発強化

➡ 研究所先端技術棟にクリーンルームを備えた研究施設アドバンスティベロップメントセンター
を開設し、HBM向けなど低汚染・低残渣が強く求められる半導体関連テープを含む材料やプロ
セスについて量産ラインに近い条件で評価できる体制を拡充・強化

【株主還元の充実】

●利益配分についての基本方針を継続

○2027年3月期までは原則として減配せず、**配当性向 40%以上またはDOE 3%を目途に**配当を行う

○内部留保資金については、財務基盤の強化ならびに将来の企業価値向上のための**生産設備や研究
開発投資**などに有効に活用していく（2027年3月期 設備投資額予想 150億円）

○自己株式取得については、手元資金を勘案のうえ、適宜必要性を判断し機動的に実施していく

今後の取り組み

【サステナビリティ経営の推進】

●積極的な株主・投資家との対話やIR活動の継続推進

- 国内外の機関投資家・アナリストとのIRミーティング対応ほか、個人投資家向け会社説明会の実施
機関投資家向け → データベースを利用したメール配信など、海外機関投資家に向けた情報発信強化
個人投資家向け → 説明会・イベントを軸に幅広い年代層に向けた認知向上

●ESGへの取り組み強化

○CO2排出量の削減 (2013年度比)

→ 2027年3月期までに **67%以上**の削減、2030年3月期までに **75%以上**の削減を目指す

○剥離紙の無溶剤化 (一部特殊品を除く剥離紙すべて)

→ 熊谷工場・三島工場で生産する剥離紙の無溶剤化比率を100%に

2025年3月期実績 71%, 2026年3月期実績 73%, **2030年3月期目標 100%**

○VOC(揮発性有機化合物)の大気排出抑制(2030年までに大気排出量ゼロを目標)

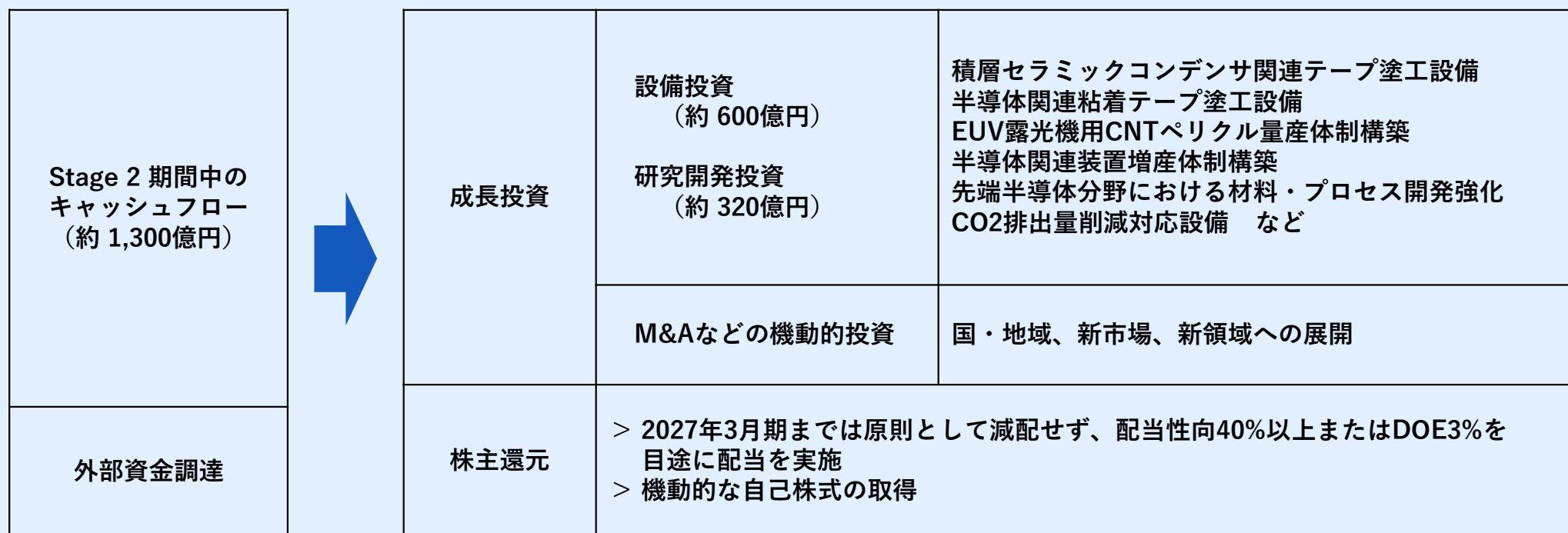
→ トルエン、キシレンなどの有機溶剤の取扱量削減および溶剤処理装置による大気放出量のさらなる削減

低濃度溶剤ガス濃縮装置など処理効率の高い設備の導入
剥離紙処方や粘着剤の無溶剤化による取扱量の削減

今後の取り組み

【キャッシュアロケーション】「LSV 2030 – Stage 2」期間

- 財務基盤の強化ならびに将来の企業価値向上のための生産設備や研究開発投資などに有効活用する

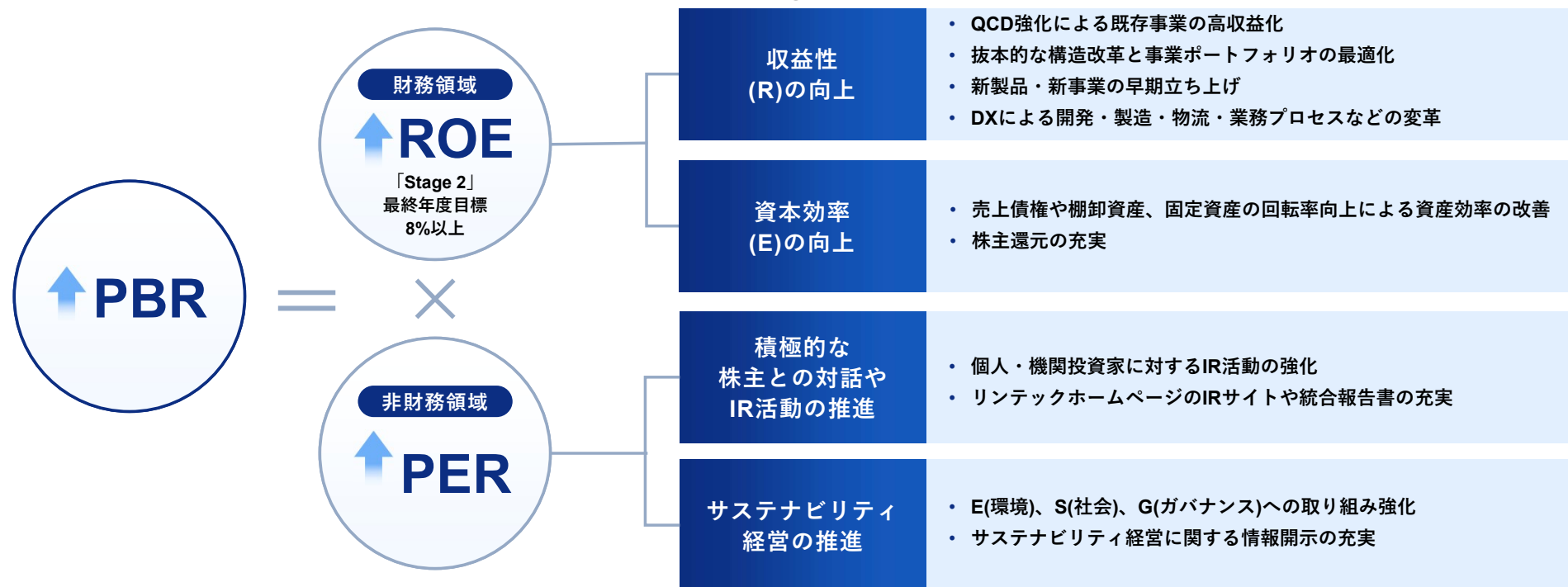


資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について (進捗アップデート)

LINTEC Corporation

方針

長期ビジョンの重点テーマや中期経営計画「LSV 2030 – Stage 2」の諸施策に取り組み、継続的なPBR1倍超えを目指す



長期ビジョン 3つの重点テーマ

- 社会的課題の解決
- イノベーションによる企業体質の強靱化
- 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

持続的成長に向けたキャッシュアロケーション